

# 第21号 華山会報

平成20年10月11日  
財団法人華山会

## 華山・万次郎・諭吉

元慶應義塾大学教授・文学博士 川 澄 哲 夫



渡辺華山は、とび抜けて時代に先んじた洋学者であった。華山を読んでいると福沢諭吉や、ジョン万次郎の「漂流記」の類を読んでいるような錯覚にとらわれることがある。華山は「西洋は果断之処有之、皆窮理（物理ノ学）より来候」と書く。福沢は「西洋の文明主義と比較して見るに、東洋になきものは、有形において数学と、無形において独立心と、この二点である」と論ずる。表現こそ違え、ここが両者の西洋事情の核心である。

華山は『外国事情書』の中で、「物理ノ学」のおかげで「世界第一ノ殷富ノ国」となった「レビュブレイキ（アメリカ合衆国）」を紹介する。彼は「君長ヲ相立不申、賢才ヲ推テ官長ト致シ、共治」という「共治ノ政」に強く惹かれていたのではなからうか。

それから十数年後、万次郎は共和政治州を「國王無之、國中ノ大政を掌候大統領職をフラジデンと申、國中ノ人民入札ニ而登職いたし、四年ニて交替致す」と日本に伝える。

土佐の漁師の息子万次郎は、一八四一年の正月、仲間と五人で漁に出て、嵐に逢い、アメリカの捕鯨船に救助される。当時、アメリカの捕鯨船団は、北はエトロフ島から南は八重山諸島に至る、箱館沖、能登沖、対馬海峡などの日本海から仙台沖、鳥島、小笠原諸島まで、その帆布で白く埋めつくし、鯨を追いかけていた。彼らの中には、難船したり、食料を求めたりして上陸する者がいた。当然、彼らと鎖国日本との間に、衝突事件が頻々として起った。ハーマン・メルヴィルの『白鯨』の世界である。そして華山の「一変」はこのアメリカの捕鯨船団によって用意されていた。

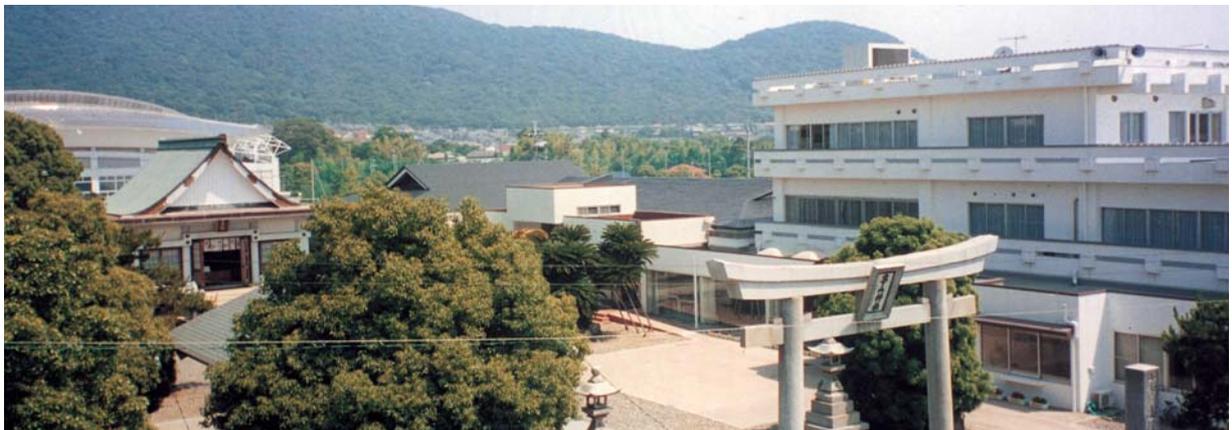
華山の「貴国永世の禁固く、海外諸国航海のもの、或は漂蕩し、或は薪水を欠き、航海に害有事、一國の故を以、地球諸國に害あり、之を人と謂べけんや」（『慎機論』）という不安は、日本会談（一八五四年三月八日）での、ペリーの第一声そのままである。ついでながら万次郎がアメリカの捕鯨船でハワイへ送られてきた日は、奇しくも華山が自刃したその日である。

万次郎は、アメリカで育てられ、封建の土佐では考えられないような自由な生活を送った。その後、彼はアメリカの捕鯨船に乗り組み、世界を一周する。そしてアメリカの鯨捕りたちが、日本に開国を求めている意志を強く感じた。彼は、「統領江直訴」してでも、琉球あたりに、捕鯨船が憩うことのできる港を開こうと決意して、帰国する。時を同じくして、ペリー艦隊がやって来た。

万次郎は老中首座阿部正弘、海防掛江川太郎左衛門などが列座する中で、アメリカが「親睦致し度との儀は彼国積年の宿願」と語る。

日本では、外国人を「禽獸同様に取り扱ふ」ということが評判になっていて、「国内のもの共いづれも残念」に思っている。一方、アメリカでは、「自他之差別なく、たとえ、通信不致国のものニても、難儀之始未承り候へハ、厚く撫恤（保護）を加へ候風儀」のため、「御國之御所置を多年不快二存」じている。「通信無之國ゆへ自然」そのなるのであるから、「兩國之和親を取繕度と彼國人常二申」しているのである、と訴える。万次郎の「慎機論」である。その時江川は、万次郎の中に在りし日の華山を思い浮かべたのではなからうか。

翌年、ペリーは再度来航し、日米和親条約が締結され、日本は近代化の道を歩み始める。華山は儒者として死んだが、万次郎や諭吉より先んじた近代思想の持ち主であった。



華山会館と華山神社

# 華山先生が描く馬

華山会理事  
山田俊郎

私は田原町片浜（現在の田原市片浜町）で少年時代を過ごし、片浜は、もともと小さな集落で、お寺もありませんが、十一面観世音菩薩をおまつりした観音堂という建物があります。この建物には、渡辺華山先生が描いた絵馬の「馬図」が奉納されていました。



現在は、重要文化財渡辺華山関係資料のひとつとして田原市博物館に保管されています。また、観音堂の前には、田原藩三宅家第十一代藩主の康直公が寄進した灯籠も建立されています。寄進した年代は読み取りにくくなっていますが、天保十一年（一八四〇）五月の寄進と伝えられています。

この「馬図」には、裏書があり、それを読むと、片浜の山田姓六人と

小林姓一人の連名で当時の村人が願主となり、天保十二年に奉納されたもので、天保十二年十月十一日には華山先生が自決されていますので、最晩年の作品であることがわかります。大きさは、縦三十七センチ、横六十七・五センチあり、材質は、タンスなどにも使用される軽い桐を使っています。絵馬としては、五角形の家型で、江戸時代ですので、板の上側は屋根の型となっています。観音堂の建物は、昭和初期と平成に入ってから2回建て替えられています。最初に建てられた年は、文化八年（一八一）で、片浜の地に、華山先生の絵が地元の公共的な建物にあつたということは誇るべきことです。

昭和時代に入り、片浜には海水浴場ができました。現在は、埋立地となりりましたが、松林が海岸線と平行に群立し、海岸から見渡すと、沖には姫島、右手には笠山、振り返ると蔵王山があり、岩場では海藻や小魚が群れ、夏には、小学校の水泳訓練や海水浴を楽しむ人々の憩いの場となっていました。姫島のおさき採りやナマコ漁も一時は盛んでした。観音堂のすぐ近くに今でも清水が湧き出る場所があります。海水浴に来る人達も喉の渇きを癒す場所でした。その場所に華山先生の絵馬が奉納されていたのです。

私は現在、田原藩校成章館跡に建てられた田原中部小学校区に住んでいます。華山が飢饉対策を乗り切るために建設を提案した報民倉、晩年を暮らした池ノ原公園、華山神社などもすぐ近くです。亡くなった父も華山先生の顕彰活動に努め、私どもの影響を受けました。華山先生の顕彰を目的とする財団法人華山会では、小学生でも読める『少年物語渡辺華山』を刊行し、平成二十年からは市内小学校六年生全員への配布を行っています。子供たちは、華山先生を郷土の偉人として身近に感じられるでしょう。国を愛し、親を思い、世の人々のために尽くすというその行動は、たゆまない努力の上になり立っています。未来を担う子どもたちに、多くのものを残し、学ぶ姿勢を示してくれています。渡辺華山先生を尊敬するとともに、この田原の地に住んでいることを誇りに思っています。

## 目次

題字「華山会報」元華山会理事 小澤耕一

P 華山・万次郎・諭吉 川澄哲夫

P 華山会理事 山田俊郎

## 目次

P 画家渡辺華山の心象 『臨摹仇英洗硯之図』

P 「外国事情書」

P 渡辺華山

『俳画冊』観賞③

P 華山の田原行（五）

P 華山会報索引

P 財団法人華山会からのご案内 田原市博物館

画家渡辺華山の心象

田原市指定文化財 臨摹仇英洗硯之

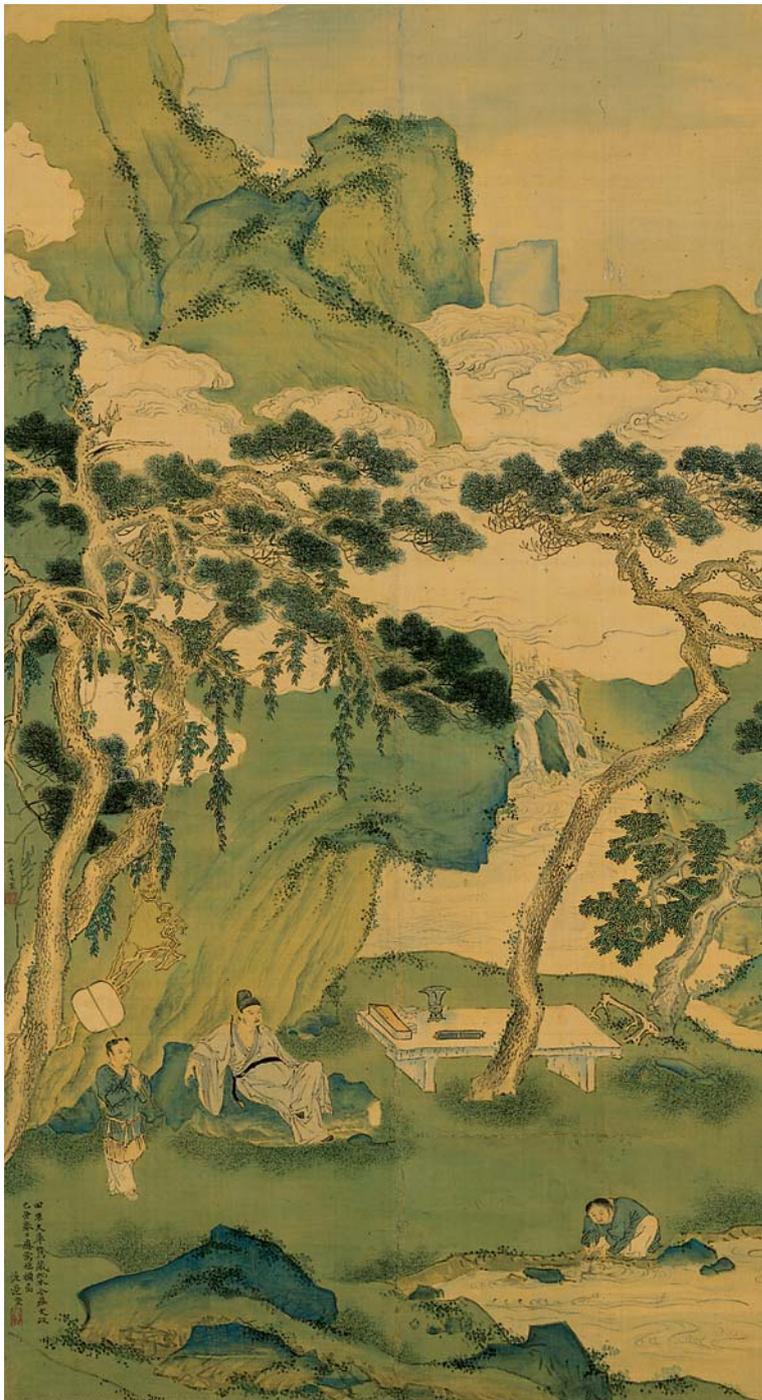
図

文政二年（一八一九） 絹本着色

縦一七・三cm 横六四・五cm

田原市博物館蔵

山の周りを瑞雲がたなびき、下り落ちる溪水は流れて池を作っている。そして松の下に机を置き小憩している王羲之と、その側で扇を持つ侍童、池畔で硯を洗う童子が描かれている。この画は中国故事を描いたものである。浙江省会稽の蕺山の下で王羲之が硯を洗い、この池を洗硯池と称した場面である。現在は「洗硯池公園」と呼ばれていて、觀光名所になっており、近くには王羲之故居も一九九〇年に建てられている。洗硯池の北には面積一五〇平方メートルの台があり、王羲之はここで書を干したことがあるといわれている。



いる。

この原画は中国、明時代の仇英の作品で、田原藩御納戸文庫にあったものを文政元年に藩主康和のお供で渡辺華山が田原に来た折に摸写し、江戸へ帰ってから翌年、需要に応じて揮毫した作品である。繊細な筆致に華山二十七歳、若き日の研鑽ぶりがうかがわれる。

仇英は、明代中期の画家で、四十歳で亡くなった。江蘇省の人で、呉県（江蘇省蘇州）で暮らし、はじめは漆工であった。人物・仕女図などが得意で、作品の主題は伝統的な青緑山水の形式による山水・楼閣の中に仕女や美人を配し、賦彩の美しさと細密な描写を特色としている。市井の職業画家としては珍しく蘇州の

文人画壇とも交渉があった。呉派の文人画家との相互の影響が認められる。代表作は、台北の故宮博物院に納められている『仙山楼閣図』、『修禊図』などがある。華山はこの仇英の画風をよく写し取っている。

田原市博物館学芸員 磯部奈三子

渡辺崋山

「外国事情書」⑤

研究会長 渡辺 亘 祥

註二曰、「予此行ヨリ歐邏巴ニ歸リ聞クニ、「カメルベル レツワソコチアカ」ニ逗留ノ中ニ、一隊ノ兵ヲ遣リテ、日本ノ北辺ヲ侵シタリト。然レドモ、其兵保続ノ企ナク、唯「アニワ」湾ノ日本会所、及蝦夷島ノ北隅ヲ剽シタル而已」是即、文化中「エトロフ」ノフーレベツ御番所ヲ焼キタル事ニ御座候。又魯西亜人モ一ル陳情表ニ、「蝦夷地ハ産物無之、カムシチャツカ同様ノ瘦地ニ付、縦合戦仕候トモ、諸軍用ニ引合不申 中略、唐山ト合戦仕候事ハ幸福ニモ相成、且ハ難事ニモ無之、」云々。此唐山ニ流涎仕候義、往々蘭人ドモ申候ヨシ。乍去、此陳情表ハ權便多ク候間、尽ク八信ジガタク候。且又慥ナル義ハ無之候得共、「シーボルト」帰國ノ上、物理学ノ「ホーグレーラール」 学頭ト申事ニ御座候。ト相成、魯西亜へ貰ハレ、引移リ候ヨシ、風説承り候。又英吉利亜人、日本近キ海島ヲ見出仕、コレニ拠リ候由、一昨年中参リ候蘭人ヲルフト申者、話仕旨、風説承り候。

なお右の註には、つぎのことが記されており、「自分が今回の世界周航を終え、ヨーロッパに帰国して聞いたところでは、かつて日本特使をつとめた侍従職レザノフが、アラスカにいたり、湾内のカデアク島に滞在中、一部隊を派遣して日本の北辺を侵略した、ということである。しかし、その部隊を持続的に同地に駐屯させようとはせず、ただアニワ湾にある日本会所、および蝦夷島（北海道）の北隅をおそっただけにすぎない」「これは、文化年間（文化四年「一八七」）、エトロフ島のフーレベツ（振別）ノ番所をロシア人が焼き討ちしたときのことを指したものであります。」「またロシア人モールの陳情表を見ますと、「蝦夷地は産物がなく、カムチャツカ同様のやせ地なので、たとえ武力によって奪ってみても、軍費にひきあわない。唐山（中国）と戦争し、その領土を奪った方が有利であり、かつ容易でもある。」と述べられております。」「ロシア人が唐山の領土に野望をもっていることは、オランダ人もしばしば申しているよし。しかし、モールの陳情表は、かれ自身に都合のよい記述が多いので、すべてがかならずしも信用がおけません。」「なおまたたしかな情報ではありませんが、シーボルトが帰国の際、物理学のホーグレーラール（教授）として、ロシアに招かれ、同地に移ったとのうわさを耳にしまし

た。またイギリス人が日本近海に島を発見して、占領したよし、一昨年長崎の商館に赴任したオランダ人のヤルフという者が、このことを告げたといううわさを聞いております。

右之通、諸國ノ氣息ヲ窺ヒ、地理に審明仕、歐邏巴諸國盟会ヲ以声氣ヲ通、天下ヲ牢絡仕候故、本国ノ離合ニ因テ、責、万国ニ及候事不少。「ホナパルテ」大乱之節、亜墨利加・諸印度、并ニ亜細亞諸島戦争ニ及候義、文化度之風説ニモ有之通ニ御座候。

一 欧邏巴諸國ノ内、皇國ニ關係仕候ハ、英吉利亜・魯西亜ニ付、肝要ノ条バカリ簡条ニ認、奉差上候。

英吉利亜、一ハ大貌利太尼亞ト称ス。英吉利亜八本地ノ名ニテ、接壤ノ国思可齊亜ヲ併セ、コレヲ大貌利太尼亞ト名ケ、其後海ヲ隔テタル依而蘭土ト申國ヲ併セ候。故ニ（其王ヲ）大貌利太尼亞及依而蘭土合國ノ王ト称シ申候。

右のとおり、西洋人は諸外国の国情をつかがい、地理を明らかにし、そのうえヨーロッパ諸國が同盟を結び、たがいに情報を交換して、世界を自由にあやつております。そのため、ヨーロッパ諸國間での離合集散が万国に害を及ぼす、といった例がすくなくありません。ナポレオン戦争のさい、アメリカ・諸インドならびにアジア諸島が戦争にまきこまれたことは、文化年間（一八四「一八」）のオランダ風説書に記されているとおりであります。

一 ヨーロッパ諸國のうち、とくに日本に關係が深いのは、イギリス・ロシアの兩國であります。そこで兩國について重要な事柄だけを、簡条書きに記して、お目にかけることにします。

まずイギリス、同國は、一名、ゴロートブリタニヤ（大ブリタニヤ）と申します。イギリスとは本國の名で、隣國のスコシヤ（スコットランド）をあわせて、「ゴロートブリタニヤ」と名づけ、その後、海を隔てたイルランド（アイルランド）という國を併合しました。そのため國王のことを、「ゴロートブリタニヤおよびイルランド合國の王」と称します。

東經八度ヨリ十九度ニ亘リ、北緯五十度ヨリ六十度ニ亘ル。英吉利亜八方積二千四百四十八里、独逸里法、下同シ、思可齊亜八千六百三十四里、依而蘭土八千五百十三里、大抵、皇國ノ大ニ比シ可申候。

其國ハ、皇國ヲ去ルコト、直經ニ仕、大凡五千里、皇國ノ里數、モ相隔リ、合附ノ國ニ御座候。緯度ハ蝦夷地ヨリ一度北ノ方ニ御座候得共、蝦夷地ヨリ春色早く催シ候由。乍去、秋冬長ク、春夏短ク、皇國ニ比スレバ、極寒ノ地ニ

候得共、氣候順道ニテ、金銀・葡萄酒・塩ノ外、生産ノ物尽生ゼザルモノナシ。良馬・銅・錫ヲ出シ、絨毛世ニ貴重ス。按ズルニ、大小麦尤多、麦酒・林檎酒・梨酒、最好シ。又「カラムルス」ニ云、此地多霧ナルヲ以テ、終日太陽ヲ見ザルコトアリ。牧野終歳青緑也。銀銅鉄ニ乏シ。「プーランズン」ニ云、此国属領ノ地多キヲ以テ、豊饒ノ地ニマサ

ル。国土の規模は、東経八度から十九度、北緯五十度から六十度にわたっています。そのうちイギリスは、面積二四八里「ドイツの里法、以下おなじ」、スコシヤは一六三四里、イールランドは一五二三里で、だいたいのところ、日本とおなじくらいの広さです。

この国は、日本から直線距離で、おおよそ五千里「日本の里数」も隔たり、日本とは地球の反対側にあたることにあります。緯度は、蝦夷地より一度北の方によっています。が、蝦夷地より早く春が来るよし。しかし、秋冬が長く、春夏が短く、日本に比すれば、極寒の地といえますが、氣候が順調で、金・銀・ぶどう酒・塩のほかは、産物で生産されないものはありません。良馬・銅・錫を出し、なかでも毛織物は世界で珍重されています。「おもつに、同国は大小麦の生産がもつとも多く、麦酒・りんご酒・梨酒が最良とされています。また「カラムルス」(青地林宗訳「輿地志略」)には「同地は多霧により終日太陽が見えないことがある。牧野は年中青緑をなす。銀・銅・鉄に土地も乏しい」とあります。「プーランズン」には「この国は属領が多いので、豊饒の国にまさる」とあります」

属領ノ地ハ、歐邏巴洲ニ在テハ、ギブラルタル城・ヘルゴランド島・マルタ島・ゴツソ島、按ズル、独逸國ノ王国「ハノーフル」モ、又英吉利亜ニ属ス。亞細亞洲ニ在テハ、「ベンガレン」、「バハル」、「ヨリッサ」、「ボムバイ」、「コロマンテル」ノ一部、「マラバル」ノ一部、「セイロン」ノ一部、「シユマタラ」ノ一部、「ホルネヲ」ノ一部、「プリンス ワーレン島」。亞弗利加ニアリテ、「セネガムビヤ」、「ピユラム島」、「ゴウト」島及スライヘン島ノ諸島、「シントヘレナ」島、喜望峰、マスカレニ諸島、「イスレデ フランセ」、「マーヘ」ノ諸島也。亞墨利加ニ在テハ、「ヒュットソンス」、「ラブラートル」諸島、「ニーウワールス」ノ諸島、「テルレネウフ」、「ニーウ スコットラント」、「ブレトン」、「ニーウ フリュンスウエイキ」、「カナータ」ノ一部、「ニーウ アルビラン」ノ新國、「デメラリ」、「エッセクエボ」、「ベルビセ」、又「ヤマイカ島」、「バルバドス島」、ラトリニダド島、「クレナダ島」、「ヒンセント島」、「ドミンカ島」、「アンチグア島」、シントリュシ一島、タバコ島、「バナマ」、又名「リュカイ」諸島、「ベルミユト」諸島。

属領の地は、ヨーロッパ州内部では、ギブラルタル(ジブラルタル)要塞、北海のヘルゴランド島、地中海のマルタ島、ゴツソ島およびコミノ島(おもつに、ドイツ国内の王国ハノーフルも、またイギリスに属します)。アジアにあつては、ベンガレン(ベンガル)、バハル(ビハール)、ヨリッサ、ボムバイ(ボンベイ)、コロマンデルの一部、マラバルの一部、セイロンの一部、シユマタラ(スマトラ)の一部、ボルネオの一部、プリンス「ワーレン島(プリンス「オプ「ウエールズ島)。アフリカにあつては、ゼネガムビヤ、ピユラム島、ゴウト島(黄金海岸)、スライヘン島(奴隸海岸)、シントヘレナ(セント「ヘレナ島)、喜望峰、マスカレニ諸島、イスレデ「フランセ、マーヘの諸島があります。アメリカにあつては、ヒュットソンス(ハドソン湾)、ラブラートル諸島(ラブラドル半島)、ニーウワールスの諸島、テルレネウフ(ニューファンドランド島)、ニーウ「スコットラント(ノバスコシア)、ブレトン(ケープブレトン島)、ニーウ「フリユンスウエイキ(ニューブランズウィック)、カナダの一部、ニーウアルピラン(カリフォルニア州北部海岸ノ地名)の新國、デメラリ(南アメリカ、ガイアナの地名)、エツセクエボ(同上)、ベルビセ(同上)、またヤマイカ島(ジャマイカ島)、バルバドス島、ラトリニダド島、グレナダ島、ピンセント島、ドミンカ島(ドミニカ島)、アンチグア島、シントリュシ一島(セント「ルシア島)、タバコ島(トバゴ島)、バナマ(バナマ)、またの名リュカイ諸島、ベルミユト諸島(以上、西インド諸島)。

亞<sup>ア</sup>烏<sup>ウ</sup>斯<sup>ス</sup>答<sup>ダ</sup>刺<sup>チ</sup>利<sup>リ</sup>ニ在テハ、英吉利亞人檢出ノ諸島尤多、中就ク新阿蘭陀東浜広大ニ御座候。千八百二十四年ノ略史。是八大概ヲ記タルノミニニテ、其上近來八益多相成候由、其中北亞米利加ノ領地八大抵清國ノ大ニ比シ、新和蘭八此節民ヲ移シ、開拓中ニ可有之、一書ニ「地学示蒙、千八百二十年ノ刻、文政三年、「シドネイ」府ニ一ウソイトワリユス、好港、学館及風説書ノ板工アリ。一書ニ「千八百二十四年ノ史、シドネイ、英吉利亞新植民ノ惣府、人口二万六千六百アリ。千八百十五年南北一路ヲ開通シ、其間六ヶ月ヲ経ル。奥地人蹟ナク、唯鳥獸アリ、云々。又東印度領最広シテ殷富ノ地、英吉利亞ノ外府ニ御座候。

アウスタラリー(オセアニア州)にあつては、イギリス人の発見した島々がもつとも多く、なかでも新オランダ(現在のオーストラリア)の東海岸の広大な地を占拠してあります。「一八「四年の『略志』。以上は、大体のところを記したただけで、近來はこれよりもさらにますます植民地が増加しているよし。そのうち、北アメリカの領地は、清國とほぼ同面積であり、また新オランダはこの節植民し、土地を開拓中のようすであります。一書「『地学示蒙、一八「四年刊行、文政三年』によれば、「シドネイ府のニーウソイトワリユス、(「ニー「サウ

スウェーデン州、シドニー」の誤り、良港、学校および新聞刊行所あり」とあり、また他書「一八二四年の『略志』」には、「シドネイ、イギリス新植民地の総府、人口二万六千あり。一八一五年に南北縦貫道路を開通。その間、六ヶ月の日数を要す。奥地は人跡未踏で、ただ鳥獣あるのみ」云々とあります。また東インド領は、イギリスの植民地中、もっとも広く、かつ富穡の地で、イギリスの宝庫といえます。

千八百二十六年ノ史ニハ、本國人口千七百七十六千人、ブーランズソン、千八百二十六年、文政九年、千八百三十四年ノ史ニハ、千七百七十六千人、ニューエーンボイス、年々他國ニ人民ヲ移シ、千八百三十五年ニハ一萬四千八百人ヲ計フ、云々。右之通本國ノ人別減シ候ハ、全民ヲ移シ候事ト相見ヘ、千八百三十五年ノ頃、新和蘭ヘ罪人千人相移候處、五百人程難風ニ遭ヒ、行方不相分義モ有之候。屬領ノ人口八千七百四十四人、フランスソン、一億零三千一百四十四人、ニューエーンボイス、此ヲ以テ考候得バ、屬領ノ数益増多ニ相成候。千八百二十四年ノ略史ニ、一億五百五十八万人ト數ヘ候ハ、全屬領ヲ合算致候數ニ候得共、審ナラズ候ニ付、本文ニ認不申候。

一八二六年ノ記録には、「イギリス本國人口一七七、万六千、」  
「『ブーランズソン』、一八二六年、文政九年刊行」とあり、一八三四年の記録には、「一七一、七万六千、」人、年々他國に人民を移し、一八二五年には、その數、一萬四、八、人をかぞつ、云々とあります。「ニューエーンボイス」。右のとおり本國の人口が減少したのは、まったく植民のためと思われず。一八三五、六年のころ、新オランダに罪人千人を移しましたところ、そのうち五百人ほどが遭難し、行方不明になった、ということもあります。屬領の人口は七四、二、四、万人「ブーランズソン」。ともあり、また一億三、一、四、人「ニューエーンボイス」ともあります。これから判断すれば、屬領の数はますます増加しているようであり、一八二四年の『略志』に「一億五、五、八、万人」とありますが、これはおそらく屬領の人口をすべて合算した数でありましょう。しかし詳細なことはわかりませんので、本文に認めることは避けました。」

風俗ハ最機巧ニ長ジ、工芸ヲ勉ム。製造スル所ノ奇器又ハ産物、万国ニ輸送シテ、本國之シキニ到ラズ。コレヲ以テ年々移民アレドモ、蕃息スルコト多シ。又商賣ヲ専ト致、其上文学ヲ勤メ、静謐ヲ樂ム。下賤ノ人ハ鬪争ヲ好ミ、外國ノ人ヲ蔑如ス。千八百二十四年略史。工技ニ敏巧ニ、記誦ヲ勤メ、道理ヲ研窮ス。然ドモ、其庸俗ハ輕躁ニシテ、他邦ノ人ヲ卑視スルノ失アリ。地学示蒙。按スル

北方思可奇亜ノ人ハ強壯、依而蘭土人ハ容貌尤美ニシテ、強壯敏健ナレドモ、癡惡奸邪ノモノコトアリ、又一書ニ、コレヲ御スルノ宜キヲ失スル、仇ヲナシ易シ（諸志同シ）。  
宗門ハヒスコップ宗、地学示蒙、ゲレホルメルデ宗（略史）、按スル、ヒスコップノ八教官ノ名、地学示蒙ノ誤リニテ可有之候。暹瑪宗ハ依而蘭土ニ多シ（略史）。  
二宗共、皆邪宗ノ一派ニ御座候。寺院八千二百五十ヶ所アリ、ニューエーンボイス。

イギリス人の国民性について、一八二四の『略志』には、「その風俗はもつとも機巧に長じ、工芸を勉む。製造するところの奇器または産物、万国に輸送して、本國之しきに到らず。これをもつて年々移民あれども、蕃息すること多し。また商売を専らと致し、そのうえ字問に勤め、平和を樂しむ。下賤の人は鬪争をこのみ、外國の人を蔑如す。」また「地学示蒙」には、「工技にたくみに、記誦をつとめ、道理を研究す。しかれども、その庸俗は輕躁にして、他邦の人を卑視するの失あり」とあります。「なお北方のスコシヤ（スコットランド）の人は強壯で、イールランド（アイルランド）人は容貌がもつとも美しく、かつ強壯敏速ですが、癡惡奸邪の者が、ままあるということですが。また諸誌いづれにも、「これを御するのよろしきを失すときは、仇をなしやすし」とあります。」

宗教については、「地学示蒙」には、「ヒスコップ宗（イギリス監督教会）とあり、『略志』には、ゲレホルメルデ宗（カルヴィン派）とあります。おもつに、「ヒスコップ」（ヒスコップ司教）は教官の名のことであり、すから、『地学示蒙』の記述が誤りでありましょう。ローマ宗（ローマカトリック）はイールランドにひろく行われております。『略志』にこれらの宗派は、みな邪宗の一派であります。寺院は全國に二、二、五、有り、あります。『ニューエーンボイス』。

治道ハ、「ペパルデー、モナルカール」、独立ノ國ニシテ、血統世伝ス。若シ王子無之時ハ、王女位ニ即キ申候。政事ハ王ノ權ト政府ノ權ト相分レ、國王ノ常典トスルハ、外國ノ盟會、軍旅・賞罰・黜陟ヲ専トス。新法ヲ創立シ、租稅ニ与ルノ兩事ハ、政府ニ任ス。是國王ノ威福ヲ過ラザル為也。カラメロス地志。右政事ノ次第ハ諸地志ノ書法一定不仕候得共、大抵君臣權ヲ分チ、議ヲ合シ相治メ候由。政府上下ニ相分チ、上庁ハ教官ノ議廷、下庁ハ世族ノ議廷。同書ニ御座候由。学政ハ大抵歐邏巴諸國同様ニテ、大小学校・語学院・幼学院ノ外、教主ノ義学、貴族ノ義学、学匠ノ義学、庶人ノ義学、芸術ノ義学有之、多寡ハ有之候得共、諸州皆無之所ハ無之候由。

政体は、「ペパルデー、モナルカール」（立憲君主國）といい、独立の國で王

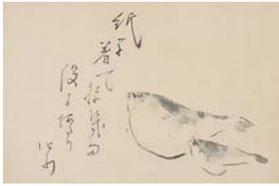


渡辺華山  
『俳画冊』観賞  
(3)

十一、紙子着てねぎきる役に

あたりけり 登

「紙子」は「紙衣」とも書く。紙製の衣服。厚手の和紙に柿の渋を塗って、それを日に干し、揉み柔らかくにして作った衣服。「紙子姿」というと、落ちぶれた姿をいうことが多い。歌舞伎の『傾城壬生大念仏』などでは「紙子一重に古編み笠 民弥はしょんぼりと揚げ屋の門に立ち・・・」などと使われて、遊里に通い詰めたかつての大尽の零落した姿を描いている。



華山の「ここでいう」「紙子着てねぎきる役」というのも、何かそつした演劇の役に当たったことを詠んだものである。紙子を着て窓をきるといふ役に、当時の人々はやはり零落の人の哀れさを思い、共感するものを感じていたのに相違ない。季語は「ねぎ」、季節は冬。

「」の句は、『俳画河豚』と云われる紙本のもの

で、縦九寸八分、横一尺五寸七分の小品に描かれているものもある。そちらの俳画も、『俳画河豚』と云われるように、句の右側に河豚が大と小と一尾ずつ描かれており、落款も「華山戯画」が使われていて、比較的初期の作品と思われる。しかし、そちらのものは、『渡邊華山先生錦心図譜』でも「寒夜酔餘の一興になるものであろうか。」と書いているように華山作品としては、画の方はともかくとして、字はやはり今一つ締まりのない感じであるのが惜しまれる。

上掲の俳画の場合は、それとは違って、河豚の絵もいいし、句と絵との調和もとれていて、みごとである。

十二、それは我師走の句なりいそげ人

それは私の師走の句ですよ、いよいよ年も押し詰まって、皆さんどうぞ急いでくださいよ。

そんなことばでもかけているような気軽な挨拶句である。何も巧まず、ありのままをありのままに五七五の句にしてみる。忙しい文人華山にとつては、そんなことも何よりの一時のカタルシスではなかつたらうか。

『俳画冊』では、この句を書き付けた左側に、



にユ一モラスであり、俳味充分といつていい。

十三、削掛重荷おろせしひとたばこ

「削掛」というのは、江戸時代の正月の風習で、柳又は檜などの枝を薄くそぎ削って、いろいろに彩色して花のようにつくったもの。正月十四日の夕方、門の正面に吊る。これは、邪気をはらい、豊作を祈るためで、二十日まで掛けておいた。

「削掛」が春の季語で、大島蓼太句集にも、「正月も影はやさびし削り掛け」などがある。「重荷おろせし」は、重荷をおろしたことだの意で、正月十四日の夕方から門の正面に吊るされた削掛が、二十日を過ぎて、一年の邪気をはらい、豊作を祈るといつつとめを無事終えたということ。

「ひとたばこ」は重荷をおろしてちょっと一服と、「削掛」を擬人化して、洒落てみたのである。従つて、句の意味を取って書くとすれば、次のようである。

正月十四日の夕方から門の正面に吊るされていた削り掛けも、二十日を過ぎて、年の邪気をはらい、豊作を祈るといふ重荷もやっとおりて、そのつとめを無事終え、ちよつと一服といつとごろだぬ。

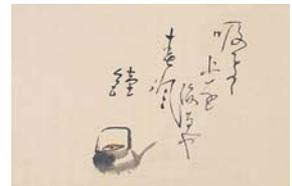


この句の書かれている『俳画冊』の俳画は、句の右側に実に洒脱な鳥追い姿の女性一人が描かれていて、見事なおい付けの俳画となっている。特に、笠を被り、三味線を弾く女性の動きは、無駄のないみごとな筆遣いで描かれていて、『一掃百態』の図に通ずるものがあり、絶妙な俳味がある。

#### 十四、吸ものゝ上を渡るや春颯鐘

この句は、『華山全集』など関係の多くの本には「吸ものゝ上を渡るや春の鐘」となっている。これは、上の図に見られるように明らかに読み誤りである。

「春颯鐘」の「春」が季語。この鐘の音は、春の夕暮れ時の鐘であろうか。おほろにかすみ次第に暮れていく春の黄昏時、夕餉の膳に向かっていると、近くの寺で撞く鐘の音が聞こえてくる。その鐘の音が「吸ものゝ上を渡るや」と感じ取るところに、華山の形象化の技の巧みさがある。



それにしてもこの「春颯鐘」というのは、ある鐘の固有名詞なのか、それとも作者がさわやかに吹き抜ける春風を名付けて「こう呼んだのか、そのどちらかわからないが、この一語がこの句の場合とても重要な働きをしているように思われる。なぜならば、何気ない表現のように見えながら、ここには春の夕べの特有の情調が巧みに捉えられているからである。

又、句とともに描かれているのは、吸い物を入れてある土瓶であろうか。あつさりとした筆遣いと彩色でありながら、さりげなく書き流したような散らし書きの句と見事な調和を保っていて、不思議な張りがある。

#### 十五、五左衛門に明日の道問ふ董かな

「五左衛門」とは誰のことか。華山の「日記」「紀行」「書簡」など一渡り探してみたが、どんな人かは具体的には解らない。あるいは、架空の人名を詠み込んだものか。「明日の道問ふ」には、明日行く道を訪ねるの意に、これからの進むべき道を重ねて鑑賞すると、よりこの句の深みが出てくる。



人間誰しも、どこから来てどこへ行くのかという命題を、生きていく限り問い続けていかねばならぬという哀しさがある。求道の人華山も又、明日の道は五左衛門に聴いてみなければ分からないことく、華山自身の進むべき道は、常に人に尋ねたり書物や実際の見聞などによって探し求めて行くしかなかったのである。その人生の道端で出会う董の美しさ、みごとな、かけがえのなさに心を寄せる華山のやさしい心根に何とも捨てがたいものがある。

#### 十六、草花やともすれば人の垣のぞき

「草花」が季語で、季節は秋。「草の花」ともいう他、千種の花、百草の花などともいう。名前のある秋の草花も、名もない野草の場合も総てを含めて、特に可憐に咲く、目立たない淋しげな感じを与える庭の花々を言うようである。それにしても、草花は他の季節にもあるのに、なぜ俳句では秋の季語に容れられるのか不思議であるが、そのもとは古代の人々の季節感や美意識が関係しているようである。



秋になって、家々の垣根の内  
のあちこちに、いくつも目立た  
ぬ可憐な草花が花をつける。そ  
んな垣根の外側を通るとき、そ  
の目立たぬ花々がふと目にとま  
ったりして、ややもすると、お  
やあれは何の花かななどと歩を止めて、垣根の中  
をのぞき込むことになる。

華山のこの句は、人々のそんなしぐさや行動に  
敏感に目をとめた挨拶句である。垣根の中から顔  
を覗かせたその家の主としばし秋の草花談義が交  
わされる姿を想像するだけでも、江戸の日本人の  
風流心や豊かな美意識がなつかしく貴重なものに  
思われてくる。

### 十七、夏の月駱駝の小屋のとれしあと

駱駝という動物がはじめて日本に渡来したのは、  
推古二年（五九九）のことで、その時は二つの瘤を  
もった駱駝が百濟から来たことが『日本書紀』に記  
されている。その後、推古二十四年（六一六）に  
高麗の国から、斉明三年（六五七）に百濟から、天  
武八年（六七九）に新羅からと、何度も朝鮮半島を  
經由して渡来しており、早くから日本人にその存在  
は知られていたことがわかる。しかし、それらはい

ずれも二瘤の駱駝であった。

華山がここで詠んだ駱駝は、一瘤駱駝であつた  
よつで、それは華山の『喜太郎絵本』の中に、中  
国の服を着て踊っているような男とともに、確か  
に一瘤駱駝として描かれている。

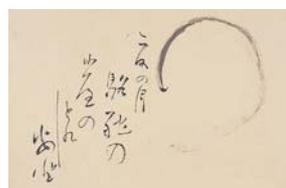
記録によると、この駱駝は、文政二年（一八二  
一）に、オランダ船がサウジアラビアのメッカか  
ら船で運んできたもの二頭で、五歳の雄と四歳の  
雌であつたということである。

当時の長崎の出島のオランダ商館長であつたプロ  
ムホフ (Jan Cockblockhoff) (一七七九〜一八五二)  
が時の將軍家斉に献上しようとしたが、將軍からは  
そんなものは無用と断られたため、プロムホフは寵  
愛していた遊女の糸萩という女性に与え、糸萩はこ  
れを香具師(やし)に手放し、この駱駝はその後、  
九州・四国・紀州・大阪・京都と巡り、更に木曾路  
を経て、文政七年(一八一四)八月五日、板橋の豊  
田市右衛門の家に一泊の後、翌六日、江戸に到着。  
九日から両国小路で一般に見せ物興行された。木  
戸銭は当時三十二銅(現在の金に換算すると凡そ千  
円くらい)という高価なものであつたが、大盛況で  
あつたといつことである。

駱駝は当時既に『和漢三才図会』などにもでて  
いたので、人々は二瘤駱駝の方をよく知つていた。  
しかし、この華山が見た駱駝は一瘤駱駝であつた

から、人々は背中瘤が一つであるのを不思議に  
思い、大きな話題になつた。

華山の画の他にも、草紙や錦絵にも描かれたり、  
川柳で「押しあつて見るより見ぬがらくだらう」  
なども詠まれ、文政八年(一八一五)の春まで  
興行が続ぎ、江戸の興行の新記録を樹立したとい  
うことである。



華山のこの俳句は、その文政八  
年(一八二五)の春まで続いた駱  
駝の興行が終わつた後、小屋もき  
れいに片づけられて、その跡には  
夏の月がにぎやかであつた興行の  
跡をさみしく照らしていることだ  
といつのである。駱駝の図とともに、この句もこう  
した江戸の街を湧かせた興行の記念すべき証となつ  
ていたとは、何とも興味深いことである。

そういえば、一七七年三月二十九日の中日新聞  
の「猿猴庵の風俗絵巻」にも、この駱駝のことが載  
つており、名古屋では、華山たちが江戸で見た五年  
後でも、大変な評判を呼んだといつことである。最  
初に江戸へ向かうとき、佐屋街道を通るといふ噂が  
流れ、人々が今か今かと首を長くする日が続いたが、  
ここを通らなかつたために、名古屋では五年も後に  
なつたといつことである。

研究会員 山田哲夫 (続)

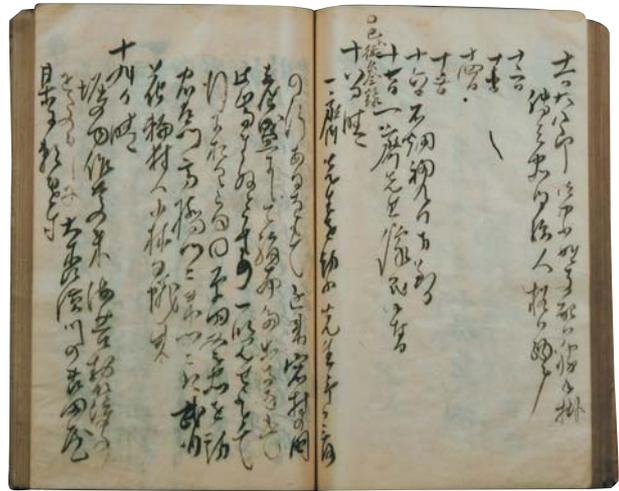
# 華山の田原行（五）

## 二月八日

この日の記述の前に、「已下客参録」と書いてあり、一月十八日から始まった征参録の記述が終わり、二月一日からの四回目の田原滞在の記述が始まります。前日が一月二十九日なので、天保四年の一月は小の月ということが分かります。

この日、野鳥の声を目を覚ました華山を雪吹伊織が朝餉を設けてもてなします。このことから、前日は雪吹伊織の所に泊まったと思われる。その後、江戸で預かったと思われる手紙を分け、家老の川澄又二郎、佐藤半助、鈴木弥太夫の所を訪れ、未の刻（午後二時）まで登城します。

登城した華山は、康直から、二つのことについて意見を求められます。一つは、奏者番の内願いのこと、もう一つが側室のことです。後者については即答したようですが、前者については思うところがあったようで他日にまわしたようです。詳しいことは十五日のところまで述べられています。



全楽堂日録

## 二月九日

前日同様三人の家老を訪問し、登城します。夜は人々が来ると書いてありますが、誰が来たのかは分かりません。

## 二月十日

この日も登城し、宝永五年（一七〇八）に赤羽根に漂流した朝鮮の祭船の雛形があることが記してあります。この船については、宝永五年の「萬

留帳」(『田原藩日記』第一巻)に次のように記されています。

六月二十三日、「赤羽根へ珍敷主無小舟流寄委細寄船帳二記之」

二十四日、「長兵衛、五郎右エ門寄船見分二遣候」

七月一日、「生田空右エ門勢州江被遣、赤羽根へ

寄申候舟之義、若神事二懸り候や松垣四神主二

て聞合可申旨、茂吉方より聞二遣し、白谷村二

て舟借切り六日夜戻ル。」

十六日、「赤羽根寄候小舟江戸へ可差下之旨、御

用番秋元但馬守様より被仰付候旨、十日付之雇

切十四日二到来、依之若井勘助道中警固被仰付

上田九左エ門も添被仰付候。」

二十八日、「勘助義赤羽根へ寄船ノ小道具、紙形

為持、明日江戸へ被遣。」

華山は、朝鮮の祭船について、伊藤東涯（一六

七〇～一七三六）の『盍簪録』に書かれているも

のであるとも記しています。

## 二月十一日

日付のみで、何も記載がありません。

## 二月十二日

この日は、鈴木喜六、中村玄喜、鈴木春三と一緒に和地村に行きます。酒肴を持って、辰の刻

(午前八時)に出発します。途中の土地の様子などが述べられ、おおまかな行路を知ることができ  
ます。

「御城をはなれセイヤ橋をわたり加地といふ所  
に出づ」

当時の加治は、松並木があり、左右はみな畑で  
ある、土の色は赤いと記されています。現在の警  
察署あたりの六田という所は「皆火色」で、草  
木も生えていなかったようです。

「黒川原といふ八縦横凡二十町もあるべし皆稚  
松なり」

松が成長しない理由として、松葉をかきとって  
薪とするからと述べています。また、現在同様、  
蔵王山や藤尾山が見え、「景よし」とも述べてい  
ます。

「ゼンゴの橋とて船蔵橋に出る川の源なり」

船蔵(倉)橋に出る川は汐川のこと、上流の  
高松町前後のあたりに来ます。ここで、「大草村  
と高松とに北八ヒル八原とて昔論地ありし所にて  
今八荒野となれり(略)今八両村意地になりて稚  
松だにおかずといふ」として、比留輪山の争論に  
ついて言及しています。華山は、「この部分を  
「赤羽根」と書き、それを消して「高松」と書き  
直している、なじみの薄い薄い田原の土地につい  
て十分把握していたと思われる。

比留輪山のあたりは、もともと天領の狩場とし  
て幕府の直轄地で、野田村が下草刈りの利権を許  
されてきました。しかし、寛文四年(一六六四)  
三宅氏着任とともに比留輪山のあたりが田原藩に  
下げ渡されました。

寛文十年(一六七〇)に大干ばつとなった時、  
野田村は比留輪山の下草刈りを藩に申し出ます。  
ところが赤羽根村も前々から懇請していました。  
比留輪山はどちらの村にとつても必要とする場所  
だったのです。そこで、藩としては、両村の入会  
地として利権を分けるように指示するのですが、  
野田村は、「家康の比留輪山狩獵の際御墨付によ  
つて許された利権で、先代戸田侯の時まで野田方  
の専有であった」(『田原町史』中巻)、赤羽根村  
は、「池田輝政が吉田在城中田原を支配し、赤羽  
根村金能寺に比留輪山の材木寄進状があり、年貢  
三石余を上納している」(同)と主張し合い、つ  
いに、流血の騒動にまで発展します。しかし、藩  
は指令を変更しませんでした。そこで、野田村が  
江戸屋敷に告訴するにしました。

ところが、江戸でも取り合ってもらえず、幕府  
へ願ひ出ても事態は改善されず、ついには老中へ  
の越訴を行い、評定所で裁きが行われることにな  
ります。最終的には野田村の勝訴となります。こ  
の時の野田村の中心人物が河合清右衛門です。

華山は、この事件を「これ八野田村といふ村と  
赤羽根といふ村との間にある地なりしがむかし清  
右衛門といふころあしきもの田原へ移封の時悪  
事を上み出し境に炭を埋て證とし論をおこせしな  
り」と述べています。農民の側では清右衛門は義  
民なのですが、為政者としての華山からみれば清  
右衛門は「ころあしきもの」であり、行ったこ  
とは「悪事」です。「其公裁八林とすれバ野田の  
もの畑とすれバ赤羽根の地と定められしよし。い  
とひがごとなり」とも述べていますので、華山に  
とつては藩の下した判決に従わなかった農民が許  
せなかったのかもしれない。



清右衛門碑

その後、清右衛門は越訴の罪で斬首となります  
が、田原藩も改易の危機を迎えます。まさに華山  
にとつては「憂ひのひとつなり」という出来事  
でした。

(続)

研究会員 柴田雅芳

# 華山会報索引

本索引は第十一号より第二十号に掲載された内容を収録しました。

## 巻頭言

- 第十一号 渡辺華山と私：寺山宏 一頁
- 第十二号 忿りの一文：村山正雄 一頁
- 第十三号 これからの書画の保存について  
：見城敏子 一頁
- 第十四号 渡辺華山と宮本武蔵：河合正朝 一頁
- 第十五号 これからの華山研究の課題  
：ドナルド・キーン 一頁
- 第十六号 渡邊華山とキリスト教  
：眞山光彌 一頁
- 第十七号 渡邊華山・福田半香・山本葉谷  
：金原宏行 一頁
- 第十八号 堅忍不拔：吉川利明 一頁
- 第十九号 人間華山先生に学ぶ：鈴木克幸 一頁
- 第二十号 渡辺華山の小さな旅：鈴木章生 一頁

## 地元の声

- 第十一号 現代に生きる渡辺華山  
：加藤寛一 一頁
- 第十二号 華山先生と私：関保則 一頁
- 第十三号 「渡辺華山研究」と小澤耕一先生  
：河合潔 一頁
- 第十四号 郷土の偉人 華山先生  
：富永道子 一頁
- 第十五号 華山に学ぶ初めの一步  
：細井直樹 一頁
- 第十六号 華山の名前に想う：菰田俊英 一頁
- 第十七号 校長室から：壁谷宜男 一頁
- 第十八号 華山の武士道：瓜生堅吉 一頁
- 第十九号 いつでも故郷は心の中に「商人八訓」  
が取り持つ縁：安田幸雄 一頁
- 第二十号 愛民愛郷：山本達夫 一頁
- 第十一号 芝山祝寿図（田原市博物館蔵）  
：鈴木利昌 二頁
- 第十二号 猛虎図（財団法人平野美術館蔵）  
：鈴木利昌 二頁
- 第十三号 蘆汀双鴨図（常葉美術館蔵）  
：鈴木利昌 二頁

## 画家渡辺華山の心象

## 特集記事

- 第十四号 雛祭図（田原市博物館蔵）  
：鈴木利昌 二頁
- 第十五号 立原翠軒像稿：鈴木利昌 二頁
- 第十六号 乳犬図（田原市博物館蔵）  
：鈴木利昌 二頁
- 第十七号 漢高祖酈食其見図（田原市博物館蔵）  
：鈴木利昌 二頁
- 第十八号 富峰驟雨図（常葉美術館蔵）  
：鈴木利昌 二頁
- 第十九号 高士觀瀑図（田原市博物館蔵）  
：磯部奈三子 二頁
- 第二十号 換鷺図（田原市博物館蔵）  
：磯部奈三子 二頁
- 第十一号 財団法人華山会寄附行為  
華山会報索引 四頁
- 第十二号 高野長英獄中書簡「鳥の鳴聲」  
：佐久間賢 十五頁
- 第十三号 国宝鷹見泉石像のモデルが集めた文物  
古河歴史博物館「鷹見泉石展」への招待  
：田原藩の参勤交代について 十二頁

博物館所蔵品から

…加藤寛一 八頁

第十四号 和田倉門跡：鈴木利昌 十四頁  
第十七号 田原城跡：鈴木利昌 十四頁

第十七号 渡辺華山の「自律狂歌草稿」鑑賞(八)  
…山田哲夫 八頁  
渡辺華山外国事情書  
…渡辺巨祥 四頁

第十一号 孔門十哲像 冉雍像

…磯部奈三子 七頁

第十一号 渡辺華山の「自律狂歌草稿」鑑賞(三)

第十二号 孔門十哲像 宰予像

…磯部奈三子 九頁

第十二号 駄舌小記・駄舌或問 八頁

第十八号 渡辺華山外国事情書 九頁  
…山田哲夫 九頁

第十三号 孔門十哲像 端木像

…磯部奈三子 七頁

…渡辺巨祥 四頁

渡辺華山の「自律狂歌草稿」鑑賞(十)  
…山田哲夫 九頁

第十四号 孔門十哲像 冉有像

…磯部奈三子 十一頁

第十三号 駄舌小記・駄舌或問 八頁

第十九号 渡辺華山外国事情書 四頁  
…渡辺巨祥 四頁

第十五号 孔門十哲像 卜商像

…磯部奈三子 十一頁

…渡辺巨祥 四頁

渡辺華山「俳画冊」鑑賞(一)  
…山田哲夫 九頁

第十六号 孔門十哲像 季路像

…磯部奈三子 七頁

第十四号 駄舌小記・駄舌或問 八頁

第二十号 渡辺華山外国事情書 四頁  
…渡辺巨祥 四頁

第十七号 孔門十哲像 言偃像

…磯部奈三子 八頁

…渡辺巨祥 四頁

渡辺華山「俳画冊」鑑賞(二)  
…山田哲夫 八頁

第十九号 市指定文化財『漂民閩書』の世界

…天野敏規 八頁

第十五号 駄舌小記・駄舌或問 四頁

各地の博物館・美術館をたずねて

華山史跡紹介

第十二号 神島紀行

…博物館友の会朝倉正巳 十頁

第十六号 駄舌小記・駄舌或問 四頁

第十三号 常葉美術館：鈴木利昌 十五頁  
第十六号 九州国立博物館：磯部奈三子 十四頁

渡辺華山の「自律狂歌草稿」鑑賞(七)

…山田哲夫 八頁

…渡辺巨祥 四頁

…渡辺巨祥 四頁

会員から

- 第十三号 学校教育と華山：柴田雅芳 十一頁
- 第十四号 「鷹見泉石展」を観覧して  
… 林哲志 十二頁
- 第十五号 渡辺華山の地方認識  
… 別所興一 十二頁
- 華山史跡『参海雑誌』にみる伊良湖の  
スケッチ：林哲志 十四頁
- 第十六号 善雄寺・谷中墓所の墓参と北斎展  
… 加藤克己 十二頁
- 第十七号 華山の田原行（一）  
… 柴田雅芳 十二頁
- 第十八号 華山の田原行（二）  
… 柴田雅芳 十二頁
- 下田市泰平寺戸田忠次公墓所と黒船来  
航の史跡を訪ねて… 中神昌秀 十四頁
- 第十九号 華山の田原行（三）  
… 柴田雅芳 十二頁
- 第二十号 伊豆韮山・戸田の史跡を訪ねて  
… 加藤克己 十一頁
- 華山の田原行（四）  
… 柴田雅芳 十三頁

学校にて

- 第十一号 大草小学校で聞きました 華山を知つ  
てますか？ 十四頁
- 第十二号 高松小学校で聞きました 華山を知つ  
てますか？ 十四頁
- 第十三号 赤羽根小学校で聞きました 華山を知  
つてますか？ 十四頁
- 第十四号 若戸小学校で聞きました 華山を知つ  
てますか？ 十五頁

博物館からのお知らせ

- 第十一号 田原市博物館販売物ご案内 十五頁
- 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁
- 第十二号 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁
- 第十三号 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁
- 第十四号 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁
- 第十五号 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁
- 第十六号 博物館春の企画展 からくり人形師

玉屋庄兵衛の世界展 十五頁  
財団法人華山会・博物館からご案内

第十七号 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁

第十八号 財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁

第十九号 博物館秋の企画展 渡辺小華展 十四頁

赤羽根文化会館・渥美郷土資料館 特別展 愛知県美術館移動美術館 名画

への旅 十五頁

財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁

第二十号 渥美郷土資料館「岡野薫子の世界」展 博物館「向井潤吉展」 十五頁

財団法人華山会・博物館からご案内 十六頁

華山会報は四月と十月に発行されます。

華山会報のバックナンバーをご希望の方は、華山会館、田原市博物館にお申し出ください。

田原市博物館ホームページ (http://www.taharamuseum.gr.jp) からご覧いただけます。

財団法人華山会  
田原市博物館 から  
ご案内

企画展のご案内

十月四日～十一月九日

秋の企画展「大橋翠石展 日本一の虎の画家」(企画展示室)  
華山の二男の小華に師事して絵を学んだ岐阜・大垣出身の画家。明治33年のパリ万博で日本人画家としてただ一人優勝金牌を受賞し、その後も数々の受賞を重ねた虎画家。作品約93点を展観し、その画業と活動に迫る。



大猛虎之図 昭和7年 個人蔵

同時開催 華山の肖像画と重要文化財孔門十哲像(特別展示室)

平常展のご案内

十一月十四日～十二月二十七日  
渡辺華山の師を中心に

(特別展示室)  
田原の歴史・市指定文化財「田原藩の御納戸本を中心に」

(企画展示室1)  
鈴木敏雄陶磁器コレクション

(企画展示室2)  
一月六日～二月十五日  
渡辺華山と渡辺小華(特別展示室)

田原の美術・鈴木充コレクション  
(企画展示室1)

田原藩の蘭学・砲術  
(企画展示室2)

ギャラリートーク 二月八日  
午前十一時 当館学芸員

二月十九日～三月二十二日  
春間近々華橋系画家の百花  
(特別展示室・企画展示室1)

ひな人形展 (企画展示室2)

博物館講座

二月十五日 午後一時三十分  
アツミとシルクロード

白土会委員道家珍彦氏  
三月八日 午後一時三十分  
文人画の流れと大橋翠石

当館学芸員

観覧料

常設展示室では渡辺華山の生涯を紹介しています。  
民俗資料館では田原の暮らしを中心に展示しています。  
赤羽根文化会館展示室でも所蔵品を展示しています。

企画展  
一般 六〇〇円(四八〇円)

小中生 無料

平常展  
一般 二二〇円(一六〇円)

小中生 一〇〇円(八〇円)

( )内は二十名以上の団体の料金  
毎週月曜日は休館、月曜日が祝日の場合は翌日

渥美郷土資料館からのご案内

十一月二日～十二月十四日

企画展「渥美郷土資料館所蔵作品による 郷土の画人展」  
企画展示室ほか

二月十四日～三月十五日  
企画展「ひな祭り展」  
企画展示室ほか

入館無料

(財)華山会から

華山・史学研究会会員募集中

申込場所 華山会館事務室

毎月第四土曜日研究会

視察研修(年一回)に参加できます。

華山会報 第二十一号

平成二〇年十月二一日発行

編集発行 財団法人華山会

理事長 白井孝市

事務局長 山田憲一

〒四四二-1242-2  
愛知県田原市田原町巴江二二の一

TEL 五三二・二三二・一七一

FAX 五三二・二三二・一七一

編集・協力

田原市博物館

華山・史学研究会

会長 渡辺巨祥

吉川利明

山田哲夫

林 哲志

小川金一

加藤克己

増山禎之

林 和彦

別所興一

中村正子

柴田雅芳

中神昌秀

華山会報ご希望の方は華山会館・田原市博物館にお申し出ください。次回発行予定 平成二二年四月二一日